

平成 30 年度 第 4 回 荒尾市行政改革推進審議会 議事録要旨

日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金）午後 2 時 00 分～午後 2 時 50 分

場 所：市長公室

議 題：1. 平成 30 年度 第 3 回 荒尾市行政改革推進審議会の協議結果について
2. パブリックコメントの結果について
3. 荒尾市行政経営計画(第五次荒尾市行政改革大綱)の答申(案)について

出席者：那須良介会長（荒尾商工会議所会頭）、上拂耕生氏（熊本県立大学総合管理学科教授）、田中伸也氏（株式会社九州文化財研究所代表取締役社長）、本田純也氏（肥後銀行荒尾支店支店長）、月岡智治氏（第一製網株式会社常任監査役/代理出席）、河部啓宣氏（荒尾市地区協議会会長会会長）、深浦淳美氏（女性ネットワーク荒尾代表者会代表）、古賀宏宣氏（連合熊本肥後有明地域協議会議長）

欠 席：鴻江圭子副会長（熊本県老人福祉施設協議会会長）

事務局：石川総務部長、満永総務課長、笠間財政課長、田川政策企画課長、岩下総務課長補佐兼人事給与係長、西財政係長、中山公共施設マネジメント推進室長、林田政策経営室長、平山、東

記録者：東

1. 開 会

田川課長が開会を宣言した。

2. 会長あいさつ

これまで計画について多くのご意見をいただいたことについて、お礼を申し上げる。市民からのパブリックコメントも出てきているので、こちらに関してもご意見を聞かせていただいて、後日、鴻江副会長と答申をしていきたい。

なお、今後も 6 次、7 次と改革は続けていく必要があると思うので、引き続き、その時代に合わせた協議をしていきたい。

3. 議事

以後の議事運営については、那須会長の進行により行った。

(1) 平成 30 年度 第 3 回 荒尾市行政改革推進審議会の協議結果について

(2) パブリックコメントの結果について

平山が、前回会議以降の経緯報告として、資料 1 に基づき、平成 30 年度 第 3 回 荒尾市行政改革推進審議会の協議結果を説明した後、資料 2 に基づき、パブリックコメントの結果について説明した。

(主な意見等)

- どの自治体でも言えることだが、パブリックコメントでいただいた意見が 5 件と少ない。住民の意見をどう収集していくかが重要である。広聴については、以前は住民向けのワークショップを開催するなど、荒尾市では比較的先進的な取り組みがなされていたが、現在はどの自治体も実施し始めている。声の大きい人の意見に左右されることの無いよう、意見を言いやすい雰囲気を作るため、例えば、女性や子どもをターゲットにしたワークショップや、福井県鯖江市の JK 課（地元の女子高生が市民団体・地元企業等と連携・協力し、まちづくり活動を行うプロジェクト）等、新しい仕組みが必要である。
- 計画の策定にあたって、パブリックコメントは市民の意見を聞くために必要な手続きである。荒尾市では、市役所庁舎外の様々な施設でも実施されていることは評価したい。ただし、今回いただいたご意見が 5 件というのは残念であった。荒尾市の経営に関する重要な計画であるので、市民の方々にもっと意見を出してもらいたかった。行政が発信した情報がどれだけ伝わるかは、受け取る側の意識もあるので限界はあるが、継続して粘り強く情報発信に努めていただきたい。
- いただいたご意見の件数もだが、ホームページのアクセス数も 232 件と少ない。市民の皆様からの意見を求めているという情報がうまく伝わっていなかったと思われるので、様々な媒体で周知をしていけたら良かったと思う。

(3) 荒尾市行政経営計画(第五次荒尾市行政改革大綱)の答申(案)について

林田室長が、資料 3-1、資料 3-2 及び資料 3-3 に基づき、荒尾市行政経営計画(第五次荒尾市行政改革大綱)答申(案)について説明した。なお、資料 3-1 については、内容を修正のうえ、最終的な答申文は会長一任とすることで承認された。

(主な意見等)

- 答申の案について「財務や人材などの経営資源」と記載があるが、財務とは財政に関する事務を指すため、経営資源という言葉に合っていないのではないかと。また、「継続的な業務改善を行う」と記載があるが、改善とは現状を肯定する姿勢でより良い状態に見直すことで、改革は現状を否定する姿勢で見直しを行うものである。現状に対する認識を明確にしておいた方がよいと思われる。
- 資料 3-1 について、答申とは、市からの諮問に応え、市に対して想いを伝え

るものであるが、「全体の奉仕者としての自覚と信念を持ちながら、意欲と情熱をもって業務に邁進されたい」の文言は職員に向けているように感じるので、修正してはどうか。また、答申文の中には経営理念である「現場主義の徹底と市役所イノベーション」を盛り込むべきである。例えば、「市民が希望を持ち幸せに生活できる活気ある街を創っていくためには、職員一人ひとりが意欲と情熱を持ち能力を十分に発揮していくことが求められる。市役所を挙げて『現場主義の徹底と市役所イノベーション』を成し遂げ、全体の奉仕者としての自覚と信念のもと、新しい荒尾市総合計画の実現に向け業務に邁進されたい。」はいかがか。総合計画の推進を下支えするものが荒尾市行政経営計画であり、市役所を挙げた現場主義の徹底と市役所イノベーションが重要である。

- 職員への応援メッセージという意味で、職員に対する文言もあって良いのではないか。若手職員もメッセージを見ることで、頑張らなければという気持ちになって欲しい。

事務局

経営理念の「現場主義の徹底と市役所イノベーション」は本計画の要となる部分である。ご提案を含めて、より良い答申文となるように会長・副会長と相談し、作成したい。

- 修正した答申文については各委員に送付いただきたい。

4. その他

田川課長が、荒尾市行政経営計画(第五次荒尾市行政改革大綱)(案)について、本日の協議結果を踏まえ、事務局で取りまとめを行い、会長確認のうえ、2月15日に市長に答申をいただく予定であることと、本日の議事録については、委員の確認を経て、本市のホームページに公表することなど説明した。

6. 閉会

田川課長が閉会を宣言した。